

日本語版

True Peace

Vol. 40

TRUE PARENTS' MESSAGE AND NEWS

天一國 11年

天曆 10月

2023年 陽曆 11月



巻頭言

真の父母様のみ言

真の父母様の動静

特集

HJ NEWS

現場ニュース

真のお母様の抱擁の時代

米国聖職者議会 (ACLC) 特別集会 天の摂理から見た人類歴史 6000 年の現在は

HJ 天苑団地「加平ベゴニア鳥庭園」と「アクアガーデンカフェ」訪問

米国聖職者協議会 (ACLC) 特別集会「旗を掲げよ」

宋龍天世界平和統一家庭連合世界会長世界巡回 (神アフリカ)

平和の道アルゼンチン：2023 宗教の自由フォーラム



真のお母様の抱擁の時代

デミアン・ダンクリー 神アメリカ総会長



世界平和統一家庭連合の皆さん！おはようございます。

私は今回の真のお母様の神アメリカ巡回の日程に先立ち、真のお母様をアメリカにお迎えるために全米を回りながら準備した内容について簡単にお伝えしたいと思います。

巡回に先立ち、私は何よりも「真のお母様包容の時代（再復興運動）」を開催するための暫定的な時期と方向性について、明確な内容が必要でした。これらの内容は、バスターミナルから数多くのバスを出発させるために早くから一生懸命準備した人々に例えることが出来ます。一般的に人々がバスを利用する目的は、出発地から最終目的地まで正確な時間、

安全性、利便性を保障されるからです。ところで、もしバスターミナルで乗客も知らないうちにバス路線が変更されていたらどうでしょうか？100%、乗客達は混乱するでしょう。したがって巡回を準備する私にとって、食口と二世圏の青年たちを安全に、天の父母様と真の父母様が望まれる場所まで、正確な時間に合わせて、バスに乗せて運行しなければならない任務がありました。

天の摂理の完成、創造主天の父母様のみ旨に向けた真のお母様の摂理において、神アメリカ全体が自身の役割を果たせるように、一瞬一瞬、天を直接経験できるようにすることは、私にとって何よりも重要でした。その契機が当然、真のお母様と皆を一つにできるように、親子のつながりを丈夫にすることが出来ると確信したからです。その時になれば、皆が心からの再誕生を経験することになると確信しました。

愛し、尊敬してやまない家庭連合の食口の皆さん。

今は天の父母様が創造理想世界の完成のために送ってくださった、独り娘真のお母様を中心とした新しい時代です。新しい時代には新しい文化が作られなければなりません。それは他でもなく、天の父母様の印を受けて誕生した、独り娘の真のお母様を中心とした文化です。新しい時期、新しい役軍として、私たちは皆気を引き締めて、天の父母様が理想とされた、太初の創造理想世界を作り出さなければなりません。その過程の一つが、真のお母様が私をアメリカに送られた理由だと思います。

巡回期間中、私は小規模な指導者とメンバーを中心に新しい文化を広めることに余念がありませんでした。神アメリカ巡回を通じて天心苑精誠と真のお母様の摂理路程講義、二世圏集会を開催した結果、私は神アメリカ家庭連合の食口と二世圏の青年たちが、真のお母様を迎えることができる基盤を築くことができました。神アメリカで天の父母様と真のお母様を直接侍ることができる、大きな役事が繰り広げられたのです。

神アメリカ 120 日間の特別精誠の中で全国巡回、真のお母様主管二世圏特別集会に参加した参加者の大多数が天の父母様と真の父母様との関係を再確立することができ、特に真のお母様に対する特別な経験、すなわち再誕生を感じたと証言しました。

困難で忙しい時期に、神アメリカを再誕生させるために、金振春（キム・ジンチュン）天心苑長と申東謀（シン・ドンモ）総裁秘書室 1 室副室長と共に全国巡回を命じてくださった真のお母様の愛が、ニューヨークのベルベディアを皮切りにニュージャージー、ワシントン D.C.、ダラス、シカゴ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ラスベガスまで隅々まで伝わった結果です。

私は巡回期間中、真のお母様が全米に新しい道を開いてくださっていることを感じました。真のお母様は私たちが現在経験している困難なことに立ち向かい、天の役事が開かれるよう通路を準備してくださいました。真のお母様はすべてを知っておられ、あらかじめ道を準備してくださいました。

このような歴史は、家庭連合摂理の歴史のまた別の章ではありません。より深い変化の風が起きているのです。

尊敬する家庭連合の皆様、確かに時代が変わりました。それでは私たちもこれからアップグレードされたバスに乗って、過去の路線ではなく、新しい路線で目的地に向かって前進しなければなりません。そのためには、完全に明らかになっていない摂理の真実を理解しなければならず、愛する真のお母様のみ言をよく受けて、実行すべき責任があります。それが天の父母様と真の父母様が望むこの時代の私たちの姿だと思います。ありがとうございます。🌀

CONTENTS



巻頭言

- 02 真のお母様の抱擁の時代
デミアン・ダンクリー 神アメリカ総会長

特集

- 10 米国聖職者協議会 (AACL)
特別集会「旗を掲げよ」
- 16 韓日米指導者、
天心苑特別徹夜精誠
- 18 天地人真の父母様主管
神アメリカ二世圏特別集会
- 21 天地人真の父母様主管
天宙平和士官生徒 (UPA) 及び
天一國青年特使特別朝餐会
- 22 天苑宮時代と
真の父母様を中心とした信仰、
アメリカ巡回講演
- 24 天地人の真の父母様
勝利帰国特別連合礼拝

HJ NEWS

- 28 天一國 11 年天地解怨
秋夕節 坡州苑奉獻式及び
坡州原殿参拝式
- 30 フワッド・ソビマンダ教
世界会長夫妻の
天正宮博物館訪問

真の父母様のみ言

- 04 世界平和のための構想
天一國經典天聖經 第十篇第四章 第一節

- 06 天の摂理から見た
人類歴史 6000 年の現在は
米国聖職者議会 (AACL) 特別集会

真の父母様の動静

- 08 HJ 天苑団地
「加平ベゴニア鳥庭園」と
「アクアガーデンカフェ」訪問

現場ニュース

- 32 国連世界平和の日記念行事：
国際指導者会議 (ILC)
- 34 トラスコ
「マジックタウン」8 周年記念
カンファレンス
- 36 アルゼンチンと世界平和を祈る
超宗教祈祷会
- 38 学校人格教育キャンペーンと
MOU 締結
- 39 健全な性文化に関する
認識向上のための教育

孝情証詞

- 41 私は行かねばならない
フリードライ





世界平和のための構想

天一国経典天聖經 第十篇 平和思想 第四章 第一節

神様が創造した世界に国境はあり得ません。白黒の人種問題は問題にならないでしょう。善悪の闘争も必要ないはずです。このような観点において、私たちが暮らす世界には、国境がないのでしょうか。国ごとに国境があります。白黒の人種問題だけでなく、家庭において夫と妻、父母と子女の間で分裂が起きています。善人と悪人が闘っています。

このような現在の情勢において、来られる主は、国境のない国をつくり、人種問題を超越して世界を一つにしなけ

ればなりません。分裂した家庭を統一しなければならず、善悪が闘っているこの世界に平和の王国をつくらなければなりません。ですから、個人は家庭の前に犠牲にならなければなりません。国は、一つの世界のために犠牲になり、屈服していかなければなりません。このような道を模索しなければ、今後、訪れる一つの世界まで進む道が完全に断絶するのです。

宗教は、国家体制を越え、世界体制を越えなければなりません。そのよう

な絶対的な力をもった宗教にならなければなりません。そのような真理をもった宗教は、墮落圏内でつくられたあらゆる制度やあらゆる風習やあらゆる国家やあらゆる氏族、血族までも、変化させる主体的な力をもたなければなりません。そこでは、アジアや西欧が別々にあるものではありません。そこに、国家的に分立し、民族的に分立し、氏族的に分立する現象や、不公平な現象によるサタンの起源があってははいけません。

それらが望む標準は、一つの国があ

るだけです。一つの民がいるだけです。一つの国土をもつだけです。それでこそ、神様を中心とした永遠不滅の一つの主権が形成されるのです。その国は、神様を中心として直系の子女たちが天命に従い、神様の命を受けたその王権をもって統治する国であるに違いありません。そこには、民主主義や共産主義はあり得ないのです。

今まで世界の数多くの民族、あるいは五色人種がつくった文化圏の世界を、すべて打破してしまい、一つの文化圏にしなければならないのです。言い換えれば、「神主義」的な家庭制度、「神主義」的な社会制度、「神主義」的な国家制度、「神主義」的な内容を備えた理想社会が展開されなければなりません。そのような主義が、墮落していない完成したアダム主義です。共産主義でも民主主義でもないアダム主義です。それは、「神主義」を求めていく過程なのです。

先生は、今から国連を一つにまとめなければなりません。国連を束ねて何をするのでしょうか。けんかをしてはいけません。そのモデルは、平和の国家になることができ、統一国家になることができるのです。超民族、超宗教、超人種、超文化圏を中心として、兄弟愛によって侍られる父母が、天下の大王陛下になるのです。アダム家庭が、家庭の王として、氏族王、民族王、国家王、世界王に発展していかなければなりません。ですから、王権が伝授されて続くようにしなければならないのが神様の摂理なのです。

宗教の中心とは何でしょうか。神様です。もちろん神様に対する名前はたくさんあります。しかし、名前が問題ではありません。その神様は、二人になり得ないのです。根源は一つなので、お一人の神様です。お一人の神様について語るとき、各国の言語が違うので

一つの神様を表す名詞は異なって表現されますが、その本体は一つなのです。

神様が志向される目的は、宗教を通して現れます。ですから、どんなに数多くの教団があるとしても、その教団が行く道の目的は、一つの帰結点に帰着しなければなりません。その帰結点とは、平和と連結され、天国と連結される理念です。

人間がいくら平和の国をつくろうとしても、人間の世の中にある何かでは、世界的な平和の国を成し遂げることはできません。もし可能だとすれば、今よりも昔の多くの宗教人たちが精誠を捧げたことによって、既にその世界を成し遂げていたでしょう。

今日、人々は発達した科学文明の中で、実存主義、現実主義に立脚して、その理想を探求しようともがいています。皆さんは、私たち人間が希望する本郷の国、理想世界を成し遂げることができるでしょうか。皆さんの心と体が一つになれずに分かれていることが問題です。ですから、外的な体と内的な心が一つになれば、問題になることはありません。心と体が統一されているかという時、この体が怨讐です。心はまっすぐに行くことを願うのに、体は反対

に行くことを願っているというのです。

天地を創造された神様は、善を中心として、個人と家庭、国家、世界、宇宙を立て、神様が願われた愛を中心とした平和の世界を成し遂げようとされました。しかし、人間の墮落によって、このようなものをすべて失いました。そうして、神様が創造したこの世界は、真の個人と真の家庭、国家、世界、宇宙となれずに、悲しみを伴った個人と家庭、国家、世界、宇宙になりました。神様は今まで、これを復帰するために苦勞してこられたのです。

そして、私たちの先祖も復帰のみ旨に従ってきましたが、どのようにすれば神様のみ旨に合うように個人が復帰され、家庭が復帰され、国家、世界、宇宙が復帰されるのかということを知らずに来ました。先生は、真の個人から家庭、国家、世界、宇宙まで、いかに復帰し、この宇宙が神様の心情にいかに一致するか、という重大な問題をかけて、これを解決するために今まで苦勞してきたのです。先生は原理を探し出したあとに、これがやはり人類に必要なものであることを知り、またこの原理でなければ、神様が創造理念を達成できないことを知りました。㊦





天の摂理から見た 人類歴史 6000 年の現在は

米国聖職者議会 (ACLC) 真のお母様のみ言 / 2023 年 10 月 7 日 (土) ラスベガス

私は今日「天の摂理から見た人類歴史 6000 年の現在は」というタイトルでお話ししたいと思います。

創造主は人類の父母になろうとされました。ご自身の形状をかたどって、鉱物世界、植物世界、動物世界まで、ペアで創造され、人間の始祖になることの出来る男性と女性、つまり聖書というアダムとエバを創造され、人間に成長期間を与えられ、彼らが自ら完成の位置にまで進むことができるよう待

っておられました。しかし残念なことに、人間の始祖になるべき彼らは責任を果たせず墮落しました。それが今日の人類歴史です。

天は全知全能であられ、始まりと終わりが同じであります。始められたので、必ず結果を見なければならぬということです。ところが、ここで重要なことは、人間の責任分担によって、天は蕩滅復帰、救援摂理の役事をするしかないという点です。

旧約聖書を見れば分かるように、イスラエルという選民を選んで中心人物を立て、蕩滅復帰、救援摂理の役事をされるその摂理が、どれほど大変であれば、4000 年という時間をかけて、「私の息子だ」と言うことの出来る独り子イエス・キリストを誕生させたのかということです。しかしながら、彼を誕生させたマリヤも、ザカリヤ家庭、ユダヤ教、イスラエル民族も、イエス様を(メシヤとして)迎え入れることが

できませんでした。ところが、待ちわびていたメシヤを送ってくださったのに、結局はイエス様を十字架に追いやってしまいました。イエス様は必ず責任を果たすべき立場であったので、十字架にかけられながらも、「再び来る」と言いました。

キリスト教の出発は「再び来る」と言われたイエス様を待ちながら、聖霊の復活により、使徒たちによって出発します。「再び来る」と言われたイエス様を切実に待ちわびながら、キリスト教の摂理が2000年を経てきましたが、残念ながらイエス様の本質が分かりませんでした。とりわけ創造主に対する本質も分かりませんでした。

アメリカは、天が摂理の完成のための再臨メシヤの環境圏を作ることができる国として選択されました。今日の強大国は、自国の利益を優先して一つになることができないという現実です。宗教も同様です。

このような現実の前で、創造主が望む地上天国、創造主が望み、人類が願う、自由、平等、平和、統一の天に侍る人類一家族になることが出来るのでしょうか？

ここで皆さんが摂理の真実を明らかにする時です。墮落した人類としては、創造主、天の父母様の前に直接進んで行くことはできません。独り子、独り娘がいてこそ、摂理の完成を成し遂げることができるのです。

真の父母こそ、墮落した人類の前に救世主です。真の父母の祝福を通じて生まれ変わる時、天の父母様の子女となるのです。

真の父母による新しい時代、新しい歴史、天の父母様を地上に迎えることができる摂理が、天一国という新しい歴史時代を迎え、人類を先導する上で中心的な役割を果たすべき責任が、キリスト教聖職者の皆様にあるため、私が今日、前に出るようになったのです。

分かりますか？

キリスト教会の聖職者の皆様は聖職者として終わってはいけません。創造主・天の父母様の息子、娘として環境圏を広げ、地上に、真の父母と共に天の父母様に侍ることができる環境圏を広げなければならない時であることを知らなければなりません。そうするためには、自分が誰であるかを明らかにしなければなりません。天の真実、創造主の本質、イエス様の本質を明らかにし、私もまた、聖職者の皆様の本質は、真の父母の息子、娘であることを明らかにしなければなりません。

皆さんは私の霊的な子女ではありません。私と共に呼吸しているこの時は、皆さんと私の立場は親子です。皆様によって、皆様が働いている教会とその環境で、皆様と共に天の父母様に侍ることのできる、真の父母に侍り、地上天国生活を拡張していく皆様になることを祈ります。✠



HJ 天苑団地 「加平ベゴニア鳥庭園」と 「アクアガーデンカフェ」 訪問

天一国の秋の季節を迎え、天一国 11 年天曆 9 月 6 日（陽 10.20）、天地人真の父母様が
HJ 天苑団地「ベゴニア鳥庭園」と「アクアガーデン in マグノリア」を訪問された。





本章では、米国聖職者協議会特別集会をはじめとする主要行事（天心苑、2 世園集会、UPA 特別朝餐会、巡回講演、勝利帰国連合礼拝）を分野別に分けて特集する。

米国聖職者協議会(ACLC)特別集会 「旗を掲げよ」



米国聖職者協議会 (American Clergy Leadership Conference、以下 ACLC) 特別集会が、天一国 11 年天曆 8 月 22 日から 23 日まで（陽 10.6~10.7）は真のお母様をお迎えし、真の家庭をはじめとして、ACLC、キリスト教聖職者、ACLC コーディネーター 100 人余りが参加する中で、恩恵の中で行われた。

ACLC は 2000 年 5 月 22 日、「神様の下、人類一家族」を実現するための目的で、120 人の米国聖職者が志を一つにして創設した、超宗教・超教派聖職者協議会である。

ACLC は宗教間の葛藤を解消するため、ユダヤ教・キリスト教・イスラムの 3 代宗派を中心に、和合儀式とイスラエル平和大行進を展開した。また、ACLC は、数十年間、真の家庭運動を率いてきた家庭連合と共に、結婚と家庭の重要性を強化して、地域社会を回復することに努力している。





ジョン・ジャクソン ACLC 共同議長、ルオン・ラウス ACLC 共同議長、デミアン・ダンクリー 米国総会長の共同主管で行われた ACLC は、デミアン・ダンクリー総会長の司会により、祈祷、賛美や礼拝、歓迎の挨拶（金起勳 神アメリカ天心苑苑長）、敬礼、花束捧呈、文化公演（T・L・バレット牧師「あなたはとても美しいです」）、真の父母様のみ言、証言（マーク & エドナ・エバナシー博士、チャールズ司教、マリオン・ダドリー）、旗伝授式および決意式、記念写真、億万歳三唱、閉会式の順で行われた。

真のお母様は世界平和武道協会の文権進理事長と共に記念式場に入場され、キリスト教聖職者らが真心を込めて準備した花籠を受け取られた後、明るく微笑まれながら聖職者たちを迎えてくださった。

真のお母様は、「天の摂理から見た人類歴史 6000 年の現在は」というタイトルのみ言を語られ、「これからは、キリスト教聖職者が責任を果たす時である」と語られた後、天の父母様の創造理想と人間始祖の堕落、救援摂理歴史として誕生した独り子イエス様の顕現と、十字架事件、そしてキリスト教歴史と再臨メシヤの環境圏として準備された米国に関するみ言を語られた。それと共に、摂理の真実と独り娘の出現や真の父母様の路程について説明された。

真のお母様は ACLC の牧師たちに、「皆さんは聖職者として終わってはならない。地上で真の父母様と共に、天の父母様をお迎えすることの出来る環境圏を広げなければならない」と語られ、「皆さんはお母様の霊的な子女である。それぞれの教会や環境で、天の父母様に侍ることのできる地上天国生活を拡張しなければならない」と強調された。



続いて、ACLC 代表の家庭が出て誓約を行い、真のお母様に決意を示した後、ACLC の署名式および決意式が行われた。聖職者たちは真のお母様と一つになり、家庭連合の旗を自分たちの教会に掲げ、真のお母様のみ旨に同参し、活動していくことを誓った。

< 誓約文 >

- 1) 第一に、ここに集まった我々は真のお母様の息子・娘である。お母様と一つとなり、変わらない心で天の父母様に献身することを決意する。
- 2) 第二に、独り娘であられる真のお母様と一つとなり、家庭連合の領域を拡大して、真理を伝播すると決意する。
- 3) 第三に、財政的にも家庭連合に献身することを決意する。
- 4) 第四に、各教会に天心苑の伝授を受けるという決意をする。

以降、聖職者はこのような決意の思いを込めて家庭連合の旗にサインをし、真のお母様に捧呈した。特にこの日、最後には ACLC 聖職者の (自叙伝・特別講義・特別行事) の感想発表の時間が行われた。📄



聖職者の感想文

ルオン・エイブラハム・ラウス牧師(ACLC共同議長)

「旗を掲げよ」特別集会は、感謝と感動が溢れる時間でした。真のお母様のみ言を聞くために集まった、すべての聖職者が家庭連合の旗を揚げながら、切実な気持ちで行事に取り組みました。この場を通じて、聖職者は皆天の父母様の心情を理解して、この時代に真の父母様として印を受けた、人類の独り娘、真のお母様の事を悟るようになりました。キリスト教聖職者として私たちは、天の父母様の教えの本質を具現して、真の愛の力を体験することのできる、お母様の偉大なビジョンを世に知らせます。私たちは人生を通じて、天の父母様が共にいらっしゃるということ、各個人の中に神聖な天の父母様の愛と、真の父母様の愛が共にあるということを伝えるために、最善を尽くして努力します。

マリー・ラウス牧師

愛してやまない真のお母様、本日、真のお母様をお迎えした私の心は大きな感動に満ちています。子女に向かった、真のお母様の限りない愛を感じることができる、神聖な時間を感謝申し上げます。神様の愛に満ちた、お母様に向かった私たちの愛を、お母様、また強烈に感じるることのできる時間となられたことを、心より望みます。この時間、我々聖職者たちは団結と連帯を通じて、私たちの精誠の象徴として、お母様がくださるすべての要請に、行動でお答えするために最善を尽くしているということをお母様が御存知であられたら幸いです。そうです、我々聖職者たちは団結と連帯を通じて、私たちの精誠の象徴として、「家庭連合の旗」を掲げる準備ができています。私たちは真の父母様の使命と絶対的に一つになり、真なる心情と真の愛と真なるみ言を中心として、人類救援の日のために最善を尽くす、米国の聖職者として誇らしく、凜と立ちます。



チャールズ・ダドリー司教

真のお母様が語られている間、私は 17 歳の時、海兵隊に入隊した時から、神様がこの瞬間のために私を準備して来られたということを悟りました。当時の私は海兵隊を通じて、全世界を回りながら、様々な文化と国籍の人たちに会うことになるとは思いませんでした。17 歳から現在までの歳月の間に、神様は 60 歳となるこの日、この時間に、私が真の女性であるお母様の前に立ち、お母様に感想を申し上げることを御存知でした。神様はこの瞬間のために、私を 50 年間準備して来られました。神様は軍隊と牧会、および結婚生活のような人生の経験を通じて、これまで私を準備してくださいました。天は私が人類の独り娘、真のお母様に会えることを確信して準備させたのです。私は真のお母様の人生を心から尊敬し、摂理に同参するようになったことを、深く感謝申し上げます。

マリオン・ダドリー牧師

今回の行事は私が考えていた以上の内容でした。私が真のお母様の前に立った時、私はどんな言葉を書けばいいのかわからなかったのですが、一つ確かなことは、真のお母様にお会いした時、私の心情は真のお母様と一体になったということです。栄光の瞬間を経験できるように、真の愛を施してくださいました真のお母様、心より感謝申し上げます。そして、真のお母様に直接お会いすることができ、とても幸せでした。私の頭の中にお母様の御顔が刻印されたので、私が目を閉じれば、ただお母様の御顔だけが目に浮かびます。それゆえ、私はお母様に心から感謝、感謝申し上げます。お母様、心より愛しています。

スランチ・グラント・ルイス大司教

真のお母様、今日は美しい日です！ 本当に素敵な日です。私たちすべての宗教指導者は今日、真のお母様の呼びかけに応えるために、全国に家庭連合の旗を立てていきます。そうして、この時代に独り娘・真のお母様が望み、願われるみ旨を成就するために努力致します。



ケネス&マデリアン・アレクサンダー牧師

私たち夫婦が真のお母様に花束を捧呈することのできる恩賜の前に心から感謝申し上げます。本当に暖かくて、愛らしい時間でした。私たちは私たちと因縁を持ったすべての人々に、真のお母様を紹介することが私たちの任務だと思います。この時代に聖職者たちが独り娘を理解することがどれほど重要なのか、聖霊の実体であり、真のお母様を知らせることがどれほど大切な価値を持つのかを悟るようになります。私たちがイエス様を尊く考えるように、同じ観点で真のお母様を、この時代の一人娘として大切にしなければならないということを実感できる時間を準備してくださったことに感謝申し上げます。

マリリン・コトレック牧師

真のお母様に旗を捧げた時、私は真のお母様の御顔が涙でいっぱいになっているのを拝見しました。真のお母様は私たちを愛で包んでくださいました。このような愛を胸深く感じる事ができたことに感謝申し上げます。真のお母様、愛しています。

マーク・アバナッシュ牧師夫妻

真のお母様、今日この場を借りて真のお母様の愛を享受できるようにして下さり、誠にありがとうございます。私たち夫婦は、1986年に韓国で初めて真のお母様にお会いしました。その後、私たちは真の父母様について勉強し、祝福を受けるようになりました。そして、自分たちの教会に戻り、信徒のために祝福式を主管し始めました。キリスト教牧師の一人として、真のお母様をお迎えし、アメリカが神様に侍ることの出来る基盤を持つことが出来るように、努力致します。私の家族の人生を全面的に真のお母様に捧げることを誓い、感謝と尊貴をお捧げ致します。✠



韓日米指導者、 天心苑特別徹夜精誠



ラスベガスに到着された、真のお母様は ACLC 特別集会に先立ち、韓日米指導者たちに「今まで以上に切迫した時であるので、天心苑で一つになって、祈祷精誠を捧げなさい」というみ言をくださった。真のお母様の指針に従い、韓日米の指導者たちは、神アメリカ天心苑に共に集まり、天一国 11 年天暦 8 月 21 日から 23 日まで（陽 10.5~7）、2 泊 3 日間の恵み深く懇切な祈祷会を行った。

デミアン・ダンクリー神アメリカ総会長は「2 匹のネズミ」を例に挙げ、「ネズミ 2 匹がクリーム缶に落ちたけれど、1 匹は人生をあきらめて溺死したが、残りの 1 匹は諦めずにもがいていたら、クリームは固いバターに変わり、そのおかげで生き返ることができた」と話し、「天心苑徹夜精誠を通じて、韓日米の指導者たちが一丸となって祈ったことは、質的な変化になった」と告白した。





特に、神日本に迫った危機をめぐって祈禱会が行われただけに、参加した指導者たちは危機を克服する力が生まれたと、真のお母様に深い感謝を表した。それだけでなく、ACLC 聖職者たちも天心苑祈禱室の役事についての紹介を受け、自然に祈禱する時間を持った。

以後、すべての報告をお聞きになられた真のお母様は、天心苑を見て回られ、「神アメリカが今後、天心苑を中心に完全に新しく生まれ変わるだろう」という祝福のみ言をくださり、神アメリカ全域を含む ACLC 指導者たちの教会にも、天心苑が作られる恩賜を施して下さった。🌀



天地人真の父母様主管 神アメリカ二世圏特別集会

「真のお母様の懐の中から孝情：浮上する未来世代」



神アメリカ二世圏特別集会が、「真のお母様の懐の中から孝情：浮上する未来世代」をテーマに天一国 11 年 天曆 8 月 23 日から 24 日まで両日にかけて、ラスベガス IPEC にて、約 1200 人が参加する中で行われた。

米国史上、これほど多くの二世圏が集まったのは今回が初めてである。これは、真の父母様主管の二世圏特別集会に先立ち、真のお母様が金振春（キム・ジンチュン）天心苑長と申東謀（シン・ドンモ）総裁秘書室 1 室副室長に、「米国 8 大都市を巡回教育しなさい」と語られたみ言のおかげであった。また、食口全員が一丸となって、天心苑を中心に精誠を尽くしたのおかげでもある。それだけでなく、ダミアン・ダンクリー神アメリカ総会長が、真のお母様をお迎えするために全米を巡回し、「再復興運動」を繰り広げた結果であった。

初日の行事は文妍娥（ムン・ヨナ）総裁秘書室 1 室総裁秘書室長、宋龍天（ソン・ヨンチョン）世界会長、申東謀（シン・ドンモ）副室長、金振春（キム・ジンチュン）苑長、金起勳（キム・ギフン）神アメリカ天心苑長、デミアン・ダンクリー総会長の「真の父母様の位相と価値」をテーマに特別講義の時間が設けられた。

集会に参加した 1200 人の二世たちは、長い間、真のお母様の愛を待っていただけに、会場を埋め尽くし、きらきら輝く眼差しで講義を聞きながら、相槌を打ちながら涙を拭う、貴い姿を見せた。





翌日には、真のお母様をお迎えし、特別集会が盛況裏に行われた。

同日の特別集会は、デミアン・ダンクリー総会長の司会で、賛美、敬拝、ケーキカット、花束捧呈、歓迎の挨拶、真の父母様のみ言、文化公演、証、億万歳三唱、閉会の順で行われた。

真のお母様は特別に、二世圏の子女たちに「あなたたちは天の摂理の歴史、人類のための救援摂理の蕩滅歴史 6000 年ぶりに真の父母によって生まれた、ピュアウォーターだ。あなた達がピュアウォーターとして、未来の天の父母様の夢を地上に広げていくことの出来る指導者として、あらゆる面で実力を備え、よく成長してることが独り娘、真の母、ワンオンマの願いである」と語られ、「あなた達は、絶対的にワンオンマと絶対信仰・絶対愛・絶対服従で一つにならなければならない。そして、ワンオンマは天一国時代の環境圏を広げていくことの出来る条件をすべて立てた場所で、実質的に天の父母様を地上にお迎えすることのできる、天苑宮を建設することによって、これからは天の父母様が真の父母と共に、あなた達、愛する二世三世圏を抱いて、それほどにも夢に、そして待ち望んできた、天の父母様を中心とした人類一 가족の地上天国の世界を広げていく上で、あなたたち皆が勝利することを願う」と強調された。

続いて、真のお母様は「きょう、あなたたちの知恵があなたたちの努力が早い内に、世界人類の 3 分の 1 でも、天の父母様に侍ることができる環境圏を作っていく、中心人物になることを祝願する」と祝福して下さった。

感想文

ジョセフ（21歳、二世 男性）

目の前に姿を見せられた真のお母様の御姿は、とても美しくて落ち着いた姿でした。約 1200 人の青年たちを愛で迎えてくださり、温かく穏やかなみ言で一瞬にして全体を圧倒されるその御姿を忘れることができません。私は真のお母様の貴重なみ言とその瞬間の雰囲気、大きな感動を受けました。私たち皆がお母様の子女であり、皆が共に、アメリカを天の父母様の前にお返ししようという、兄弟であり姉妹であることを感じる事ができました。

— ゼリン（25歳、二世 女性）

ただ、真のお母様にお会いできたことが、笑顔を浮かべられる姿にお会いできて、真のお母様の心情を感じる事ができたことに、私の心の魂の復活を感じる時間でした。

— エドワード（33歳、一世 男性）

特別集会を通じて真のお母様にお会いして、み言を聞きながら、本当に私たち二世の心をとても気にかけてくださっていると感じました。真のお母様が望まれる姿に成長し、この素晴らしい時に、真のお母様に侍り、共にすることが出来るように最善を尽くします。

— スタニ・スラブ（16歳、二世 男性）

家庭連合の青年たちと未来世代のための真のお母様の愛を深く感じる事の出来る時間でした。私たち皆がお母様の子女であり、皆と一緒に、アメリカを天の父母様の前にお返しするために努力致します。真のお母様、心より感謝申し上げます。愛しています。✝



天地人真の父母様主管 天宙平和士官生徒 (UPA) 及び 天一国青年特使特別朝食会



真のお母様はアメリカの二世圏総会を終えた翌日の朝（陽 10.9）、特に北米圏で活動している UPA や天一国青年特使を招待して朝食を施してくださいました。

同日、朝食会には、シニア UPA3 期のエンテラ GPA 訓育官および行政官と、アデリナ GPA コーディネーターおよび訓育官をはじめとして、福田ともみ第 2 地区事務局長（ワシントン DC CARP センター長）、シニア UPA2 期 ジェイク・ラビナ（ニュージャージー州 CARP 会長）、シニア UPA7 期 上田よしゆき（カナダ・バンクーバー会長）など 5 人の特使とニュージャージー、ロサンゼルス、そしてカナダ・バンクーバーで宣教実習をする天一国青年特使 10 人が出席した。

真のお母様は UPA および青年特使たちの名前を一人一人紹介を受け、宣教国についての宣教活動報告を聞いた後、「あなたがどれほど大切であるかわかりますか？現場でよく活動して勝利し、北米 3 億人類に責任を果たすことの出来る、若い指導者として成長することを願う」という貴い祝福のみ言を語ってくださいました。

さらに、参加者たちは、これまで合間合間に準備してきた歌を真のお母様に奉献し、強い決意を固めた。

真のお母様は、真のお父様天宙聖和以降、基元節を宣布され、2027 に向けた 7 年路程の中で、未来人材養成に最も重点を置かれ、鮮鶴「天宙平和士官生徒 (UPA)」を創設してくださいました。

真のお母様は、UPA 生徒たちの任官式と発令式を直接主管され、「皆さんは真理とみ言で生まれ変わり、世の中の灯火とならなければなりません。この時代を実感して、勉強し、生活する皆さんになることを願います。皆さんが光輝く者となるでしょう。皆さんを通じて、暗い世の中が照らされるでしょう。（陽 2013.3.4）」というみ言をくださいました。🌸



天苑宮時代と 真の父母様を中心とした信仰、 アメリカ巡回講演

「現代の真の父母様の位相・価値と摂理完成」をテーマに
神アメリカ巡回講演を盛況裏に終了



今回の巡回講演は、ニューヨーク州テリータウン修練院（陽 9.22/180 人）を皮切りに、ニュージャージー州クリフトン教会（陽 9.23/300 人）、ワシントンタイムズビル（陽 9.24/300 人）、テキサス州ダラス・フォートワース教会（陽 9.26/120 人）、シカゴ（陽 9.29/140 人）、ロサンゼルス（陽 9.30/176 人）、サンフランシスコ・ベイエリア（陽 10.1/150 人）、ラスベガス国際平和教育センター（陽 10.3/120 人）で行われた。

金振春（キム・ジンチュン）天法苑苑長と、申東謀（シン・ドンモ）第 1 総裁秘書室副室長は、「現代の真の父母様の位相・価値と摂理完成」という主題を通じて、真のお父様天宙聖和とパンデミック以後、天の父母様と真の父母様のみ旨を、家庭連合を中心に、あまねく全世界に広げるために、巡回講演を始めた。

金振春苑長は、真の父母様の本質、位相と価値、真の父母様の摂理完成、真のお母様と一体となることを中心に講義を情熱的に進め、申東謀副室長は UCI（統一教会世界財団）の法廷訴訟事件の顛末をより正確に明らかにし、食口たちが真のお母様の心情と一つになって慰労の対象となるべきことを伝えた。





神アメリカ全域から参加した食口たちは、困難で辛い時期に、容易ではない日程の中でもアメリカを訪問し、み言を伝えてくれた金振春苑長と申東謀副室長、デミアン・ダンクリー神北米大陸会長に感謝と尊敬の心情を伝え、今後、世界本部を中心に、より正直で透明性を持って運営される共同体の中で、互いに一つになり、真のお母様に侍り、前進しようという誓いを伝えた。

現場関係者は「神アメリカにとって大変重要で必要なメッセージだった。このような時間が本当に頻繁に必要だ」として、「教育のために金振春苑長と申東謀副室長を送って下さった真のお母様に心より感謝したい」と明らかにした。

また講演参加者は「2 世たちに真の父母様の位相と価値について教育する部分において限界があったが、特別に世界本部から直接名講師を送って講義を進行して下さり、大変有益な時間になった」と伝え、「幸い皆が同じ心情で今回の巡回講演のために精誠を立てて参加してくれて嬉しい。今後もアメリカ内でもこのような時間を頻繁に設けて、教育していきたい」と伝えた。

また、神アメリカでは「天苑宮時代と真の父母を中心としたアメリカ 8 都市ツアー」(陽 9.22) のために、120 日間、計 21 回の連合ワークショップを開催し、精誠の基盤を築いた経緯がある。🌀

天地人の真の父母様 勝利帰国特別連合礼拝



天地人真の父母様勝利帰国特別連合礼拝が、天一国 11 年天曆 9 月 1 日（陽 10.15）HJ 天宙天寶修鍊苑大聖殿で、真の家庭をはじめ天一国指導者、神韓国牧会者夫妻、摂理機関および企業役員、平和大使、中心食口など 1200 人が参加する中で盛況裏に行われた。

この日の礼拝は、世界平和統一家庭連合の宋光奭（ソン・グァンソク）韓国協会長を司会に、開会宣言、天一国歌斉唱、家庭盟誓、報告祈祷（梁昌植 UPF 世界議長）、記念映像、特別報告（宋龍天世界会長・金振春・天法苑苑長・申東謀秘書 1 室副室長・李基誠 天心苑長）、花束捧呈（李現榮 韓国宗教協議会会長・ヤンジョンウン KCLC 国際委員長）、ケーキカット、真の父母様のみ言、孝情文化公演、億万歳三唱（金東宴 神韓国 YSP 会長）、閉会の順で行われた。





真のお母様はこの日、み言を通じて「今この時代、今日が、まさに麦を収穫する時なのです。麦とは『天一国の祝福家庭』です。地上に真の父母様と共に、天の父母様に侍り暮らす、天国生活の環境を広げていく祝福家庭の皆様こそ、真なる健康な麦なのです」と祝福された後、「これから天一国時代。人類歴史において新たな歴史の出発が始まった天一国。この時代を生きていく祝福家庭の責任が、天が収穫すべき健康な麦をたくさん収穫する時であることを知らなければなりません」と語られ、「これ以上遅らせることはできません。天の父母様と共に、真の父母が祝福の子女たちと共にする地上天国生活は、私たちが作っていかねばなりません。これまで天がすべての面でひと時のために準備してきた義なる人、専門的な人、そのような人々を伝道しなければなりません。そして明るい未来、幸せな未来、これまで親不孝だった創造主の天の父母様の前に親孝行する皆様になることを祈ります」と伝えた。

宋光爽（ソン・グァンソク）会長は開会の挨拶で、「真のお母様は 80 歳のお年にもお体にむち打たれながら、摂理の長子国である神アメリカに出国され、米国 ACLC 牧師たちと二世圏の未来指導者たちに、平和と希望のみ言を伝え、神アメリカ巡回を勝利的に天の前に奉献され、10 月 11 日早朝に帰国された。巡回期間中、ひと時も休まず、平和と希望を伝え、天の父母様と真の父母様に侍らなければ、この苦痛から抜け出すことはできないと語られた」と、天の父母様、真の父母様、真のお母様の偉大なる真の愛を伝え、皆さんが、真のお母様のアメリカ巡回で勝利的な結実を相続する、貴重な時間になることを願う」と話した。



梁昌植世界議長は「私たちの前に押し寄せる、あらゆる不義と不当な挑戦に、強く大胆に乗り越えていく統一家の食口となられ、我も知らずに天の摂理に相対する人々に、天の能権と鉄の心で、正義と真実を正すようにしてください」と話し、「きょう天上天下に、天地人の真の父母様をお迎えして始まるこの集まりで、天の父母様が直接臨在され、私の目と耳を開き、心を開いて、父母様の心情の中に深く入り込み、私たちが進むべきあの頂上へ向かってもう一度誓い、決意するこの日とならしめて下さい。そうして、日本・アメリカ・アジア・中南米・アフリカ・オセアニア・ヨーロッパ・ロシア・中東地域のすべての食口一人一人の家庭の上に、あなたの祝福と権威と愛が共にありますように」と切実に懇願した。

続く特別報告の時間には、まず最初に宋龍天世界会長が、真のお母様の神アメリカ巡回全般にわたる、総合的な報告を行った。宋龍天世界会長は ACLC キリスト教牧師特別集会と神アメリカ二世圏特別集会を重点的に報告し、特に今回の巡回の最大の結実は「独り娘・実体聖霊・真のお母様と、ACLC 聖職者が完全に一つとなり、天心苑を中心に韓日米の霊界が一つとなり、真のお母様を中心に神アメリカ二世の青年たちが完全に一つになった時間だった」と伝えた。

2 番目の金振春苑長は「真の父母様の位相・価値と摂理完成」という主題で、真の父母様の使命、私たちの使命を証した結果を共有した。金振春苑長は「この時代は、真のお母様を中心にした最終摂理完成の時代であるため、家庭連合の食口が正しいアイデンティティを持ち、正しい行動と正しい判断を通じて、摂理に同参しなければならぬ」と強調した。





3 番目の申東謀副室長は、真の父母様を中心とした信仰の重要性を、UCI の不服従事例を中心に、9 月 22 日から 10 月 3 日まで講演した結果を報告し、「真のお母様に侍り、天の父母様のみ言を聞くことができる天一国安着時代を迎えた私たちは、真のお母様は、真のお父様と天の父母様と共に一つになっておられるという事実を悟り、摂理の主人であられる真のお母様と一つになって、真のお母様の苦痛を受けられる心情を解放する、孝情の子女たちにならなければならない」と伝えた。

最後に李基誠天心苑長は、「天心苑摂理の恩恵」という主題で報告した。李基誠苑長は、「真のお母様のみ言に従って、米国で韓日米の指導者が一つになり、3 日間、天心苑の特別精誠を捧げた結果を伝え、今回の天心苑の特別精誠は、真のお母様の恩恵の中で驚くべき恩恵が共鳴し、神アメリカ二世圏が、ACLC 牧師たちが、独り娘・真のお母様を実体聖霊として侍ることを決意した」と述べた。

恩恵ある 4 人の特別報告以後、真のお母様の勝利帰国を祝う「天心苑賛美団とクリエイト・アゼリア、そして UPA の孝情文化公演が繰り広げられ、その場を盛り上げた。

全体の行事は、金東宴神韓国 YSP 会長の先唱で、億万歳三唱を最後に終了した。🎌



天一国 11 年 天地解怨秋夕節 坡州苑奉獻式及び 坡州原殿参拝式

「天一国 11 年天地解怨秋夕節 坡州苑奉獻式および坡州原殿参拝式」が天一国 11 年天曆 8 月 15 日（陽 9.29）坡州原殿坡州苑で、真の家庭をはじめ摂理機関長、機関企業体長、元老および宗親、大教会長および中心食口約 200 人が参加する中で第 1 部と第 2 部に分けて行われた。

第 1 部には、真のお母様が許可して命名して下さった「坡州苑奉獻式」が、イ・ギンク副協会長の司会で開会宣言、敬礼、祝祷、経過報告、奉獻のみ言、テープカット、看板上掲式、記念撮影の順で行われた。

キム・ソクジン ソウル北部大教会長は、代表報告を通じて「坡州原殿に永眠される、深天開放苑忠孝開門主・孝進様の孝の心情と、天総官・興進様の忠義の精神を受け継ぎ、忠心奉身・大母様の至極精誠の心情と、統一家の先輩たちの絶対信仰・絶対愛・絶対服従の精神を完全に相続し、統一家全体が全力投球できることを切に願ってやみません」と懇願した。



宋光夷（ソン・グァンソク）世界平和統一家庭連合神韓国協会長は、奉獻のみ言を通じて、「真のお母様は原殿に安置された方々の志を称え、齋室建築を許可（2020.8.31）され、この齋室の名前を『坡州苑』として祝福（2023.9.15）して下さった。ここには私たち共同体が天の父母様と真の父母様によりよく侍るようという意味があり、私たちはここを通じて犠牲の道を行った真の家庭の崇高な人生を記憶し、元老先輩たちの忠孝の伝統を受け継いでほしいという願いがあることを記憶しなければならない」と伝えた。





宋龍天(ソン・ヨンチョン)世界平和統一家庭連合世界会長は、奉獻の祝祷で、「坡州原殿は、天の父母様が願われ、望まれるその国の義を安着させようと死生決断された真の家庭と、統一家の真の英雄たちを称える場所であるため、すべての祝福家庭は感謝と尊敬の気持ちを持ち、ここで新しい世界に向けて前進するために決意しなければならない」と強調した。

続いて第2部では「天一国 11 年天地解怨秋夕節坡州原殿参拝式」が厳肅な雰囲気の中で聖燭点火(文孝進・文興進家庭)、開会宣言、天一国歌斉唱、家庭盟誓、報告祈禱、献花および敬拝(真の家庭、元老宗親、各界代表、霊肉界全体を代表する祝福家庭)、歆饗、記念の挨拶、祝祷、億万歳三唱、閉会宣言の順で行われた。

宋龍天世界会長は、真の父母様の総解怨秋夕節のみ言を紹介し、「坡州原殿は家庭連合摂理史の産室である。家庭連合の大きな祝日である秋夕の深い意味が、全世界の人々と連結されなければならない」と強調した。また宋龍天世界会長は、み旨の道のために大きな責任を持って、聖和された真の家庭と先輩家庭、そして名もなく光もなく聖和されたすべての方々に感謝と尊敬の気持ちを伝え、聖霊の恩賜として新しい時代を必ず開いていくという覚悟と決意の祝祷を捧げた。

その後、宋光奭 神韓国協会長を中心に、真の家庭の文信出君と文信興君にベルリンの壁の記念石を渡す、特別な時間が設けられた。これは過去に文孝進様が、ドイツのベルリンの壁をつかんで祈られた時の記念の石であるため、神統一韓国を必ず成し遂げなければならないという全体の決意の思いを集めて伝達された。

最後に趙萬雄(チョ・マヌン)元老牧会者会会長の億万歳三唱に続き、代表者中心に第1原殿から第4原殿までの原殿参拝式を行い、すべての日程を終えた。🚩



フウッド・ソビ マンダ教世界会長夫妻の 天正宮博物館訪問

フウッド・ソビ マンダ教世界会長夫妻が天一国 11 年天暦 7 月 30 日から 8 月 14 日（陽暦 9 月 14 日～28 日）まで、世界平和統一家庭連合の天正宮博物館をはじめ、漢南洞の天一国大使館、南陽州家庭教会などを訪問した。

マンダ教徒はイラク南部に現存するグノーシス派のキリスト教徒である。もともとマンダ教は数百万人の信徒を抱えていたが、迫害と虐殺に直面して、現在世界で 10 万人ほどと推定される。フウッド・ソビ会長は現在、マンダ教の世界会長を務めている。

フウッド・ソビ会長はちょうど 40 年前の 1983 年、中東戦争の困難の中、一人でオーストラリアに渡り、オーストラリア政府と交渉してマンダ教徒を移住させることに成功し、その後も 2 万人近いマンダ教徒を移住させた経歴がある。

フウッド・ソビ会長は事実上、マンダ教で「父」と称される存在であり、85 歳のご高齢にもかかわらず、天の父母様のみ旨とマンダ教のために献身している。





フワッド・ソビ会長は、2019年の国際指導者総会 (ICL) で初めて真の父母様の人類平和活動に接してから、ご自分が経験した深い感動と強い決意を真の父母様に報告している。当時フワッド・ソビ会長は「真のお母様は真なる人類の母です」と告白し、2019 アジア太平洋サミット、2020 アジアリーダーシップカンファレンス、2020 ワールドサミット、真のお父様天宙聖和 10 周年、2023 ピースサミットなどに参加した。

それだけでなく、真のお母様の摂理のために 430 家庭神氏族メシヤの使命完遂のために、積極的に活動しており、すべてのマンダ教徒が真の父母様のみ旨に参加できるよう道を整えている。

フワッド・ソビ会長は、今年 5 月の天苑宮天一聖殿奉献の際にも 2022 ピースサミットに出席し、奉獻のための精誠を捧げ、全世界にある 19 のマンダ教聖地と共に、天苑宮を 20 番目の聖地にすると伝えてくれた。

今回の訪問期間中、フワッド・ソビ会長は宋龍天 (ソン・ヨンチョン) 世界平和統一家庭連合世界会長と面会し、本郷苑で「真のお父様」に敬意を表し、真のお母様を中心とした孝情天苑の摂理をよりしっかりと実感できる時間を持った。

フワッド・ソビ会長は、2025 年の天苑宮入宮式で、もう一度韓国を訪問することを約束し、世界平和統一家庭連合の孝情天苑聖地巡回及び韓国探訪の時間を設けてくださった真のお母様に深い感謝を伝えた。🌸

国連世界平和の日記念行事： 国際指導者会議 (ILC)

パラグアイ UPF(グスタボ・ジュリアーノ教育局長) 主管により国連世界平和の日を記念して「国際指導者会議 (ILC)」が、天一年 11 年天曆 8 月 6 日 (陽曆 9 月 20 日) パラグアイ国際会議場で「文鮮明牧師天宙聖和記念新任平和大使任命式及び歴史共感：国防と国境警備」というテーマで開催された。

ア ILC はパラグアイ国歌斉唱 (国立警察庁室内楽団) を皮切りに、追悼曲、敬礼、開会祈祷 (ハビエル・オブレゴン牧師)、歓迎の挨拶 (エバリスト・フェルナンデスパラグアイ UPF 会長)、映像上映 (天宙平和 11 周年)、歓迎の辞 (フレディ・フランコ国会議員兼平和大使)、真のお母様のリーダーシップ紹介、天宙聖和 11 周年記念映像上映、基調講演「パラグアイ、平和の地」、歴史共感 (フェデリコ・フランコ前パラグアイ大統領)、基調講演、UPF 紹介：表彰状授与式及び新任平和大使任命式 (シモン・フェラボリ南米 UPF 会長) の順で行われた。





フレディ・フランコ国会議員兼平和大使は歓迎の挨拶のあと、自分が国会にいる限り、UPF のすべての活動を支援する意向を表明した。

エドゥアルド・ヒロヒト中山ロハス氏は「パラグアイ、平和の地」というテーマで「平和は人類が熱望すべき最も重要な価値であり、南米は全人類のための平和の内外的センターになるべきである」と述べた。

フェデリコ・フランコ前パラグアイ大統領は、ILC 開催を歓迎する挨拶を伝え、「人類は創造主神様のみ意に一致した行動と、歴史に関する正しい認識をすることで、真の平和を成し遂げることができる」と強調し、パラグアイの歴史とその重要性について紹介する時間を持った。

また、ベルナルディーノ・アントニオ・ゴンサレス・ミランダ国防副大臣は「国土防衛と国境警備法」についての言及で、「安全保障の目的は、国家の統一性と文化の保存にあり、これは人類全体が守るべき約束である」と語った。

南米 UPF のシモン・フェラボリ会長は「UPF による世界平和の業績」について発表したあと、ドニャ・エミリア・アルファロ・デ・フランコ元大統領夫人兼上院議員を表彰し、新任の平和大使 10 名に賞牌を授与した。シモン・ノイディル・フェラボリ UPF 会長は、新たに任命された平和大使 10 人をはじめ、出席者全員に「世界平和のための持続的かつ積極的な役割に最善を尽くしてほしい」と呼びかけた。🇵🇷



トラスコ 「マジックタウン」8周年記念 カンファレンス

天一国 11 年天曆 8 月 17 日（陽曆 10 月 1 日）、トラスコで「マジックタウン」8 周年記念カンファレンスが開催された。

「マジックタウン」とは、メキシコ観光庁が指定したメキシコの文化、歴史、芸術、安全などを含む観光都市を指す。

メキシコ世界平和統一家庭連合 (FFWP) と天宙平和連合 (UPF) では、8 周年記念カンファレンスの一環として家族関係の強化プログラムを行った。

プログラム全体のスケジュールは、マリア・パヤレス・キンタナ・ルー UPF 会長の司会で、UPF の主な活動紹介 (ビクトル・カスティヨ・まつおさゆき UPF 事務局長夫妻)、歓迎の辞 (ホルヘ・リベラ市長)、特別感想発表 (ビクトル・パレデス、アビガイル・バルガス夫妻)、ケーキカット (エステル・リベラ・ヌエボ・レオン女性研究所コーディネーター)、閉会の辞 (ラウラ・ロペス世界平和国会議員連合会長)、既成祝福式 (2 家庭)、平和の鳩除幕式 (アルマンド・フローレス市長) の順で行われた。





ヴィクトル・パレデス、アビゲイル・バルガス夫妻は「家族関係促進プログラムを開催することは非常に特別なこと」とし、「幼少期の保護対象児童が家族関係について正しく理解し適応すること、児童のための『児童の権利教育』と、親のための『賢明な父母教育』による効果は、今後、より大きな実りをもたらすと確信している」と話した。

アルマンド・フローレス市長とカロロス・ゴメス博士は「家族強化プログラムは、今後の平和世界拡散のために最も基礎的で賢明な方法である」と述べ、「このような内容が家庭内で自然な形で経験され、記憶されればいいと思う。こうしたプログラムを準備してくれた FFWP と UPF の活動に感謝を表す」と述べた。

今回のプログラム開催のため、メキシコ政府はもちろん、国立女性研究所、世界持続可能財団、万国平和連盟が後援してくれた。🌸

アルゼンチンと世界平和を祈る 超宗教祈祷会

2023年9月21日は、国連が定める世界平和の日である。宗教間協会 (IAPD) とアルゼンチン UPF は、世界平和の意味を再認識する行事の一環として、「アルゼンチンと世界平和を祈願する超宗教祈祷会」を世界平和の日行事の一部として開催した。

バシリオ学校平和講堂で行われた今回の行事には、シマオ・ペラボリ南米 UPF 新任会長とシウダデラブエノスアイレス大司教をはじめ、80 人余りの宗教指導者と会員が参加する中、合心祈祷 (シウダデラブエノスアイレス大司教、エドゥアルド・カストロとノルマ・リミアカトリック共同体のエキュメニズムと宗教間対話委員長、ラビ・マルセロ・アプテマンユダヤ人共同体の創立メンバー、アルテキンアルバ文化間対話センター理事、ノエミ・パレデスキリスト教福音教会牧師、ラマクリシナ・アシュラマアルゼンチン霊性教会副会長、スワミ・プルナボダナンダヒンドゥー教共同体副会長、マウリシオ・セフ・カギュー・テクチェン・チュリン理事長)、宗教間対話 (アングラズ・シン・グランティ・ブエノスアイレス・アルゼンチン・グルドワラ・グル・ラム・ダス・デヴジシーク共同体議長；イヤ・アデワレ・エウゼニア・カルビ・ヨルバ伝統司祭、イレティ・オヤオグン・アフリカ主義宗教協会会長、カルロス・バルガ世界平和統一家庭連合協会会長、グスタボ・リバルディアルゼンチン科学教会会長、アンドレア・フェルナンデス・ベバンスブエノスアイレス市モルモン教ディレクター、ブラザー・ホラシオ・ピサノ・バシリオ科学教会副総裁)、合心礼拝、感想発表の順で行われた。





シマオ・ペラボリ博士は「人間は常に数々の障壁に阻まれて苦しんできた。世界平和の出発点は、人間にこの一次的な障壁を破る方法を見つけることを要求している。そして、多くの宗教指導者たちによると、真の愛だけがそれを可能にするということだ。彼らは神様が意図されるところにとどまり、神のみ意を主張し、人類が従うべき道を示すために召されている」と伝えた。

超宗教祈祷会の最後にミグラ・ワーナーアルゼンチン UPF 会長は、葛藤と戦争の危機的な時期に信仰、霊性、団結、愛と奉仕の力で一堂に集まった指導者全員に感謝の意を表した。🙏

学校人格教育キャンペーンと MOU 締結 〈教育の核心は心の教育〉

コンゴ民主共和国青年学生連合 (IAYSP) は「教育の核心は心の教育」というテーマで、天・国 11 年天暦 8 月 2 日 (陽暦 9 月 16 日) に聖モンフォール中学校 (カトリック財団) で、生徒のための 1 日人格教育カンファレンスを行った。

この日、コンゴ民主共和国のメルベイ・サシ IAYSP 会長とウィリー・マンガラ聖モンフォール中学校校長は、持続可能な生徒の人格教育と平和のための正しい価値を教える了解覚書 (MOU) を締結した。

今回の活動のために、コンゴ民主共和国 IAYSP は、起業家のビクトル・ニャンギ青年雇用団体長から 1,110 ドルの奨学金を支援され、聖モンフォール中学校の生徒に学費と生活費の一部を支給した。

特に、学校関係者と保護者は、IAYSP が生徒のために提供した人格教育と活動に心から感謝の意を表した。✎



健全な性文化に関する 認識向上のための教育

「健全な性文化に関する認識向上のための教育」がトーゴ世界平和女性連合 (WFWP) と青年学生連合 (YSP) の共同主管で天一国 11 年天曆 8 月 20 日 (陽曆 10 月 4 日) に「エマニュエル王子」学校で開催された。

小学校、中学校、高校などで合計 3 回にわたって行われた今回の行事には、学校創立者の校長をはじめ、教師及び主要関係者が参加した。

「健全な性文化に関する認識向上のための教育」は、青少年の正しい性価値観の確立のための様々な性教育プログラム提供を目的としている。

1 部では、青少年の特性と発達段階に合わせた性教育が行われた。

間違った性、早婚、早期妊娠による学業中断の危機に直面している少女たち、同性愛、麻薬、酒・タバコ、家庭内暴力などで、願わない結果を招く可能性のある青少年に正しい考え方と知識を伝えるための教育が行われた。





2 部では、成功的な学校生活、校内生活のための秘訣伝授とそれに伴う様々な活動が行われた。

良好な家族仲、盛んな交友関係、将来の進路決定に関するプログラムが用意された。

トーゴ WFWP と YSP は、こうした内容がまず各家庭や学校、地域社会でどんどん伝達されるように、小・中・高の青少年を指導した。

教育のあと、「エマニュエル王子」学校設立者は「青少年の健全な性文化形成を支えるために教育してくれた WFWP と YSP の関係者に心からの感謝を伝え、学校も性認識改善のための支援拡大に最善を尽くす」と述べた。

教育に参加した生徒は、自らの体を健全に保ち、実際に安全な生活指導をしてくれた講義内容に心から感銘を受けたと伝えた。

トーゴ WFWP と YSP は今後も健全な性文化拡散のために学校と機関が心を合わせて、死角に置かれた青少年により正しい性認識文化を教えるために、様々な教育 (人格教育、原理教育、祝福教育) を支援する計画だと明かした。🌀



私は行かねばならない

フリードライ | ドイツ宣教師

神様の声

1975年、真の父母様を中心に日本、米国、ドイツの3カ国の宣教師がチームとなり、イエス様時代120門徒のような立場から、その数に該当する宣教部を全世界に準備しなければなりません。3カ国の宣教師たちは、アダム、エバ、天使長を代表する立場であり、イエス様の三弟子を代表した立場から世界的版図を確保しなければなりませんでした。



私はかつて、真の父母様のみ言に対する信仰と信頼により、海外宣教に対する夢を育ててきました。

真の父母様が語られた、歴史的な大転換期についての確信を持ち、原理の勉強に集中してきたのであり、高等教育を終える前に、カンベルク修練所で開催された、海外宣教師派遣の修練会に参加することになりました。一日は、床に就く前に、「お前は必ず宣教現場に行かなければならない！」という声が聞こえてきました。しかし、あまり考えることなく眠りにつき、翌日にもいつもと同じように修練会の日程に参加することになりました。ところが修練会が進むにつれ、ポール・ウェルナー牧師(当時の管理者)が、一通の電話を受け、彼は受話器を置くと同時に「スリランカに宣教師を派遣しなければならぬので、志願者を募集する」と言いました。当時、私はまだ若かったため、該当事項さえなかったけれど、それは明白に天が私にくださった機会でした。スリランカは天の父母様と真の父母様が私を宣教を送るのために用意した場所に間違いありませんでした。このように私は1975年4月27日、21年間の海外宣教の第一歩を踏み出すことになりました。

国境を超えて

スリランカに行くために、インドを訪問した私は重い荷物を背負ったまま、インドの公式検問所に連れて行かれました。インドの国境警備隊は何度も私のパスポートを調べた後、「あなたは入国が不可能です」という言葉をかけてきました。天の父母様と真の父母様のみ旨を伝えに行こうとする私の前途が阻止されたのです。その瞬間私は、「私がまさかこの両国の間に捨てられるはずはない。



誰かが私の話を理解して、私の状況を理解してくれるだろうか？私にはすべきことがある」という考えに全身が激しく震える中で、自分が知っているすべての宗教を動員して祈祷を捧げ始めました。今考えてみれば本当に恥ずかしいことこの上なかったけれど、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教、シーク教をはじめ、仏教、ジャイナ教、ゾロアスター教など、私が知っているすべての宗教がその当時、総動員されました。

第一印象

紆余曲折の末に私は再び飛行機に上がることができ、まもなくスリランカの首都コロンボ空港に到着しました。スリランカの熱帯気温と、鼻を突く何だかわからない臭いをはじめ、非常に差別化された文化と言語、そして見知らぬ人々が与える第一印象はこれまで私が生きて経験したそのいずれにも比較することができませんでした。私は限りなく高ぶっていた私の心臓が安定することを願うだけでした。

スリランカはインド南に位置する、わが国の3分の2ほどの大きさの島で人口は2千万人をやや上回る国です。サイズは小さいけれど、先史時代から伝わる独自の文化と歴史を持つ魅力的な国であり、周辺各国に美しい土地という意味の「ランカ」または「セレンディップ」と呼ばれてきました。しかし、500年余りの長い植民地時代の中で紆余曲折を経て、ついに1972年、「スリランカ」に変更され、今日に至っています。

スリランカは、全体人口の75%ほどを占めるシンハラ族(仏教)、15%ほどのタミル族(カトリック)の他にも、9.2%がムーア族(イスラム教)で構成された多民族宗教国家です。平和に暮らしていた彼らは植民地統治を経験し、結局は仏教徒であるシンハラ族が主導権を握り、民族と宗教的対立と少数宗教に対する迫害を敢行しています。

私は空港に到着して目の前に広がる光景だけでも、スリランカの深刻な経済難、宗教難はもちろん社会的、政治的な困難さまで余すところなく感じられました。



大切な縁

私はスリランカのコロンボに到着した初日の午後から人々が多く通っている中心街の商店と街頭で、自然な出会いを通じた統一原理の伝播活動を開始しました。そんな中で、ある日、ドイツ大使館に仕事があって行ったところ、そこでスリランカでヨガを教えている若いドイツ人女性と親交を持つようになりました。彼女もまた私と同じ理由でドイツ大使館を訪問しており、私たちは色々な些細な対話を皮切りに不慣れな土地で親交を持つようになりました。以後、私は彼女に真の父母様の使命とメッセージを伝え、そのように彼女は、スリランカで私の初の信仰の子女となりました。

そのように活動が続けていく中で、米国人宣教師であるアマンダと日本人宣教師ミシノリがスリランカに到着してきました。以後、私たちは青年伝道のためにコロンボ大学を訪問して、真の父母様の平和思想を紹介し始めました。宗教が違う彼らは、意外にも「太初 of 天の父母様の理想、創造理想世界は平和世界」という内容に目を輝かせました。それだけでなくもっとたくさんの内容を聞こうという情熱も見えました。出席者たちは宗教間の違いの中で共通点を発見するようになり、お互いを通じてよりよい世界を夢見ることができました。

追放と紛争

スリランカに入国してから6ヵ月が経ち、ビザを延長しなければならない時期に差し掛かりました。ビジネスビザを持っているミシノリ(日本宣教師)とは違って、私とアマンダ(米国の宣教師)はこれ以上スリランカに滞在することができませんでした。私たちはスリランカの宣教のためにこれまで自分達と連結された多くの人々を通じて、どんな方法でもビザが延長されるように調べてみたけれど、そんな努力にもかかわらず、私とアマンダはスリランカを離れなければならなくなりました。出国後も何回も私とアマンダはスリランカに入国するために絶えず努力しましたが、帰ってくる答えは強い監視と制限のみでした。以降、アマンダと私は再びスリランカに入るのが容易ではなかったために、新たなミッションを受けて活動するようになりました。

新しい宣教国、フィジー (1975~1983)

南太平洋西部の南東部に位置した美しい島、フィジーに到着した私は、ミシノリ (日本人宣教師) を通じてフィジー宣教もスリランカと類似した過程になるということを聞くようになりました。入国 6 カ月以降からは、フィジー政府当局もやはり、すべての宣教師を追放、または働くことをどうしてでも防止するという内容でした。フィジーで持続的な宣教をするためには、特別な能力を備えていたり、専門的な知識がなければビザ発給が不可能でした。私は残酷な現実の中で 40 日特別精誠を立てること以外に、何の方法も見つけることができませんでした。そんな中、偶然フィジーで縁を持ったドイツ人の若いカップルが、フィジーの首都スバにある南太平洋大学に私を紹介してくれることになりました。大学では突然のドイツ語教授の死亡により、急にドイツ語を教えてくれる講師が必要であり、私は私の唯一の強みであるドイツ語を通じて職業と経済的自立を強化することになりました。以後、ドイツ語教育を受けた弟子から、私がフィジー農業開発事業のドイツ部署で副チーム長として雇用されることまで起こりました。実際、何の能力もなかった私を、なんとかフィジーに残そうとした天の役事でした。

それにより私はフィジーで長期ビザを取得して、安定した収入を得ることができ、さらに家庭教会活動に必要なトヨタミニバスを購入したおかげで、地域活動および教会学校プログラムまで円滑に運営することができました。

その後、キリスト教 (64%)、ヒンドゥー教 (28%)、イスラム教 (6%) のフィジーの人々は定期的に統一原理教育まで受けることになりました。私たちは一定期間、時間、教育を通じて一緒に集まり、祈祷し、歌を歌いながら信頼関係を着実に形成し、固い縁を結んだおかげで、今日までも連絡を取り合いながら過ごせる関係になりました。それはまさに天の父母様の下人類家族という真の父母様のみ言が私たちの縁の基礎となったからです。

もう一つのミッションで行くことになったフィリピン (1984 ~ 1993) と ロシアのハバロフスク (1993 ~ 1995)

私は祝福を受け、1984 年春、夫と一緒にフィリピン南部のミンダナオ島に送られました。当時の任務は一日も早く宣教センターを拡張し、成長させて地域社会全体を伝道することになりました。

私たちがフィリピンに到着した日は、フィリピンのミンダナオ島、ダバオ市、カガヤワン祭りであちこちが騒がしかったです。ところが突然どこからか銃声が聞こえてきて、センターのドアを開けてみると、ドアの前で 2 人の警察官が共産党員に殺されたまま倒れていました。私はいつも増して大きな衝撃を受け、その場にそのまま座り込んで天の父母様に「私が一体ここにいなければなりませんか?」という祈祷を捧げました。すると「あなたはここにいるあなたの兄弟姉妹を、そのまま見過ごすことができるのか?」という返事が聞こえてきました。何かに殴られたような音で正気になってから、ダバオ市での宣教が始まりました。

ダバオ市は、日本人宣教師によって開拓の基盤が成功的に整っていました。公式的な活動は、全面的なセンター会員達の情熱により、2 都市から 5 都市にすぐに拡張することができました。私と夫は伝道対象者に「平和と民主主義、宗教の必要性」について講義を行い、すべての宗教の最終定着地は平和に暮らすことの出来る、天の父母様を中心とした理想世界の建設にあるという真の父母様のメッセージを伝えました。そのような内容が彼らに伝わり、そのおかげでダバオ市での活動は羽をつけてどんどん飛び始めました。

「統一は愛の基盤の上で行われ、平和は統一の基台の上でのみ達成される」という真の父母様のみ言を説くために、私たちは管轄地域をはじめ、他の市道所在の学校はもちろん軍、官、マス



コミまで訪問しました。その時につながった宗教関連教授と数多くの学者は、その後フィリピンのマニラで開催された CAUSA セミナーに参加し、フィリピンがこれ以上共産主義国家に変貌することを防ぐために絶えず努力しました。それだけでなく、センターの食口達は原理、統一思想、勝共理論、CAUSA 活動、圓和道修練会、地域ボランティア活動を生活化し、互いの足りない部分を補い、経済的基盤づくりにも最善を尽くしました。ミンダナオ島の宣教は若い学生たちと教授たちの努力で日々成長していきました。

5 年の歳月が流れ、私と夫は様々な活動の効率性向上のためマニラに移住しなさいというミッションを受けるようになりました。1993 年初め、私は極東ロシアで最大の都市であり、行政の中心地であるハバロフスクで新しい任務を任されました。ロシアに移住した 6 ヶ月間はウラジオストク高校で、教師と生徒のための統一原理セミナーを主宰しました。共産主義理念は旧時代的であり、私たちの教育は新しい秩序を作るのに最適でした。ロシア文学と世界宗教を基盤にした人格教育を重点にセミナーを進め、私と夫はいつのまにか日常生活に対処できるほど十分なロシア語を学ぶようになりました。そしていつからか私たちは、どんな状況の中でも不平よりは今までの経験を土台に方法を探し始めました。

人類の真なる真の父母

私の過去の宣教時期を振り返ってみると、すべての時間の中に天の父母様と真の父母様が共にありました。ただ真の父母様の「天の父母様の下人類一大家族」というメッセージを伝播するために、言語、慣習、文化や環境の障壁を越え、すべての懸念や心配を払いのけて、乗り越えることができました。

草創期の開拓期と成長期を越えて、今は地元の人々が主役になって伝道し、自立し、成長する時期であることを痛感しています。私は今日、私に与えられたもう一つのミッションに向かって、いつも天の父母様と真の父母様との親子の因縁を大切に考え、常に感謝の思いで生きていきます。✎

